

## スキャニング技術による文化財保存

実施日：平成30年2月20日～2月23日 於：インドネシア（ジャカルタ, ASEAN事務局）

### ■ 派遣専門家



井手 亜里

京都大学工学研究科 教授

イランから1973年来日し、京都大学工学部電子工学科を卒業、同学助教授を経て2001年より同学教授に就任。同学研究室で開発した超高精細スキャナと画像分析システムにより、これまでに1万点以上の日本の国宝級文化財、世界文化遺産、および世界最高レベルの芸術作品をデジタル化。後世へ継承するため文化財の現状をデジタルデータとして正確かつ半永久的に保存し、撮影したデータを基に用いられた材料を推定することを可能にしました。

### ■ 事業概要

#### ● ジャカルタ



インドネシア教育文科省ヒルマール文化総局長・インドネシア大学教授と



現地から提供された素材を使ったスキャナのデモンストレーション



インドネシア各地から博物館・資料館関係者が多く参加

#### ● ASEAN事務局



ASEAN事務局での講演



同事務局の担当部署や大学・文化関係者との積極的な質疑応答



持参した展示品の説明

### ■ 実施結果

京都大学教授の井手亜里さんがインドネシアを訪問し、講演会とデモンストレーションを行いました。文化財保存の重要性や、開発した超高精細スキャナによる日本国内外での文化財デジタル化の実績について講演。経年劣化や破損によって状態が変化していく文化財の今の姿を正確に保存し、研究・教育分野での活用や次世代に残すためにデジタル・アーカイブ化を進めることの意義を説明しました。デモンストレーションでは、超高精細スキャナと画像分析システムを用いて、インドネシア側から提供された織物と陶器のスキャニング・分析を実演。博物館・文化関係者が多く参加し専門的かつ活発な質疑応答が行われ、複数の現地主要紙で記事が掲載。インドネシア教育文科省からは、スキャニング技術による文化財保護の協力体制を構築したいとの要望が寄せられました。